

アルプス公園の目指すべき姿（骨子案）

◆都市公園法上のアルプス公園の位置づけ

種類	種別	内 容			主な公園
		利用想定	誘致距離	標準規模	
住区基幹公園	街区公園	街区に居住する人	250m	0.25ha	蟻ヶ崎公園 など
	近隣公園	近隣に居住する人	500m	2ha	庄内公園 など
	地区公園	徒歩圏内に居住する人	1km	4ha	あがたの森公園 など
都市基幹公園	総合公園	都市住民全般の 休息、鑑賞、散歩、遊戯 運動等総合的な利用	なし	10～50ha	松本城公園 アルプス公園
大規模公園	広域公園	市町村の区域を超える 広域のレクリエーション 需要を充足する	なし	50ha以上	長野県松本平広域公園 (信州スカイパーク)
国営公園		都府県の区域を超える 広域的な利用	なし	300ha以上	国営アルプスあづみの公園

◆アルプス公園の公園規模と位置環境

- アルプス公園の面積は約73haであり、総合公園の標準規模を大きく上回る公園です。
- 一方で、松本市内には長野県の広域公園があり、隣接の安曇野市には国営公園があることから、アルプス公園の特性を活かした公園づくりをしていく必要があります。

アルプス公園の目指すべき姿

ワークショップ、利用者団体懇談会で出された意見を踏まえ、検討会議の議論からみえてきた方向性

◆アルプス公園の特性

市街地から近い位置に、「こどもが自由に遊ぶことができる広大な敷地」、「アルプスと松本平を一望できる景観」、「豊かな生態系を有する自然」が共存し、かつ無料で利用することができる、日本の中でも稀有な、松本のまちの魅力が凝縮された総合公園です。

◆アルプス公園が果たしている機能

開設から約50年の間、様々な人のライフスタイルや価値観を包摂(※)し、多様な選択肢を提供するとともに、市民一人ひとりの心豊かな生活を支えるプラットフォーム(土台)であり続けてきました。

(※) 包摂とは、「一定の範囲の中に包み込むこと」という意味。

アルプス公園の目指すべき姿

◆なぜ多くの市民にとってのプラットフォームたりえたのか ①

昭和49年に開設した南側開園部は、「時代の要請に対応した施設型公園整備」を行うエリアとし、これまで順次、施設の充実を図るとともに、平成19年に開設した北側拡張部では、「自然環境を重視した自然活用型公園整備」が行われました。これにより、同一公園内に2つの異なる要素が共存し、更には両輪となることで、多様な市民ニーズを受け入れる公園として、多くの人に利用されてきました。

南側開園部

- S 4 9 開設（子ども冒険広場など）
- S 5 3 小鳥と小動物の森を整備
- S 6 2 ドリームコースターを整備
- H 1 9 山と自然博物館を整備
- H 3 0 展望広場を整備
- R 3 ~ 小鳥と小動物の森の大規模改修に着手

北側拡張部

- H 1 9 開設（森の入口広場など）
- R 3 自然活用検討会議を設置・提言
- R 4 自然活用実行会議を設置・提言



共存・両輪

アルプス公園の目指すべき姿

◆なぜ多くの市民にとってのプラットフォームたりえたのか ②

アルプス公園は、都市公園に求められる多くの機能を複合的に有していることから、多くの市民に利用されてきました。

《アルプス公園が有する6つのプラットフォーム機能》

- ① コミュニティ形成 地元町会、ボランティアなどによる清掃活動
様々な利用者団体やイベント運営団体 など
- ② 健康増進 ウォーキング、景色を眺めて心を休める など
- ③ こども・子育て支援 こどもが安心・安全な環境の中で外遊びできる
子育て中の親にとっての気分転換 など
- ④ 自然環境の保全・利活用 身近に自然と触れ合える、体験学習
野鳥や希少植物などの基礎データ蓄積 など
- ⑤ 地域経済の活性化 来園者への飲食サービスの提供 など
- ⑥ 歴史・文化の継承 山と自然博物館 など

アルプス公園の目指すべき姿

◆アルプス公園に求められているもの（方向性）

- 現在、アルプス公園は、多くの人に、年齢や属性を超えて、多様な目的をもって利用されていますが、それは、アルプス公園が有する「特性」と「果たしている機能」によるものであり、それは、これからの50年も変わることはないもの、変えてはいけないものと考えています。
- その上で、多くの市民がアルプス公園に求めているものがあると考えます。
- それは「公園としての居心地の良さ」であり、居心地が良く誰もが快適に過ごせるオープンスペースとしての空間です。そして、多くの人に利用される「アルプス公園の居心地の良さ」は、「松本のまち全体の居心地の良さ」に繋がるものと考えます。

アルプス公園の
居心地の良さ



松本のまち全体の
居心地の良さ

開設から約50年が経過した公園全体の課題とその対応

◆多くの人に利用されているが、開設から50年が経過すると課題もある

- 施設や設備の老朽化が進んだり、公園全体で約78haという広大な敷地面積を有しているため、管理が行き届いていない面があります。

「公園としての居心地の良さ」を創出するためには、誰もが安心・安全に公園を利用できる環境整備が重要です。老朽化した施設や設備を点検し必要な改修を行うとともに、管理運営体制についても見直すなど、これからの50年に向けて、公園全体の再生・リフォームが必要です。

- 公園まで車がないと行きにくく、園内は広く高低差があるため、移動が大変です。

利用者が多い時のバスの増便など公共交通の充実を検討するとともに、園内の移動については、対象者や維持管理コスト、自然環境への配慮なども含めて、導入の是非を含めた多角的な検討が必要です。

開設から約50年が経過した南側開園部の課題 ①

◆多くの人に利用されているが、開設から50年が経過すると課題もある

H27年に松本市が用地を所得した「まきは山荘跡地」が未整備のまま利活用されずに残されていて、展望広場は、建物の耐震不足から解体されてしまいます。



展望広場



建物の傷みがひどく、地震があると倒壊する危険性が高いことが分かったため、解体されます。

未整備地



砂利が敷かれ、臨時の駐車場として使われています。

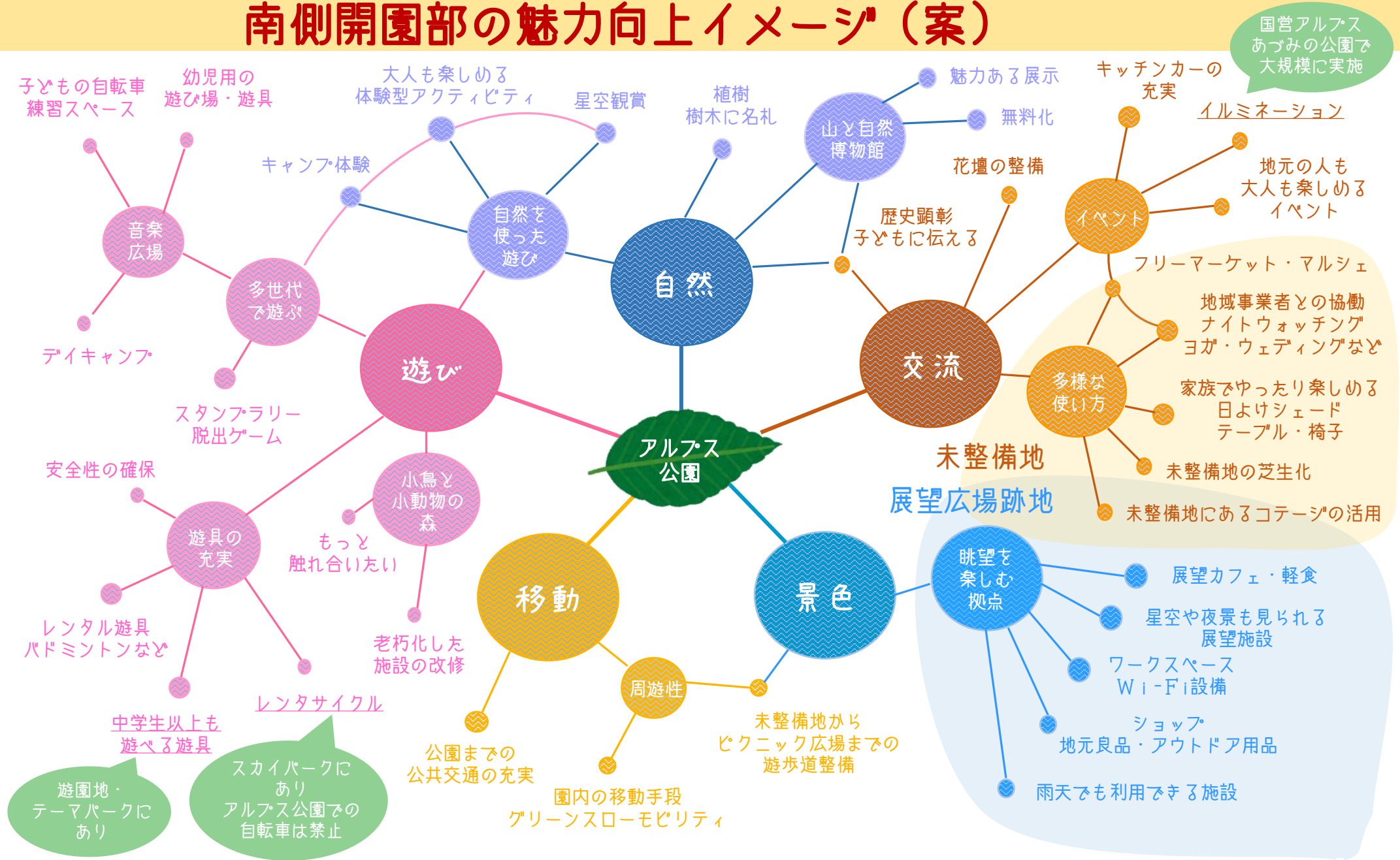
開設から約50年が経過した南側開園部の課題 ②

◆子どもをはじめとする幅広い層の市民が話し合い、課題を挙げています。

ワークショップやアルプス公園利用者団体懇談会で多く出された意見

- 飲食物の持参が必要で、軽食をとったり、買うところがない。
- 家族と一緒に時間を過ごしたり、食事ができる日陰が少ない。
- 展望広場がなくなってしまう。
- 雨天時に使用できる施設が少ない。
- よく使われているエリアがある一方で、音楽広場などあまり使われていないエリアがある。
- 山と自然博物館がもっと利用されるといい。

課題を踏まえた「時代の要請に対応した施設型公園整備」エリアである南側開園部の魅力向上イメージ（案）



南側開園部のエリア別の方向性と整備・利活用イメージ

方向性	整備・利活用イメージ
景観を最大限に活かした交流・滞在空間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲食スペース・ワークスペース・案内所機能を併設した展望施設の整備 ・ 未整備地を芝生化し、多様な主体が様々な用途に活用できるスペースとして活用 (※) 整備・利活用の詳細は次ページ

未整備地～ピクニック広場

方向性	整備・利活用イメージ
景観を活かした回遊路	・ 人が通れる程度の遊歩道整備

山と自然博物館

方向性	整備・利活用イメージ
市民に活用される施設	・ 展示スペースの無料化

家族広場・さくらの森

方向性	整備・利活用イメージ
家族の快適な滞在空間	・ 日陰を作れるレンタル用具の整備

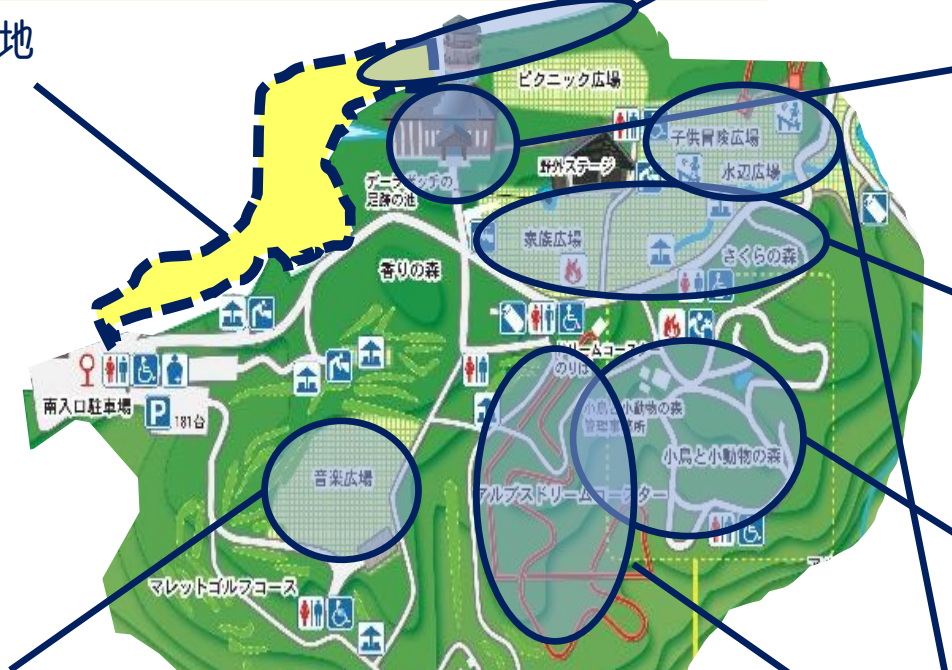
小鳥と小動物の森

方向性	整備・利活用イメージ
動物の生態を間近で観察できる施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老朽化した施設をリニューアル ・ 動物と触れ合える環境の整備

子ども冒険広場・アルプスドリームコースター

方向性	整備・利活用イメージ
こどもが安心・安全に遊べる施設	・ 点検に基づく計画的な改修・メンテナンス

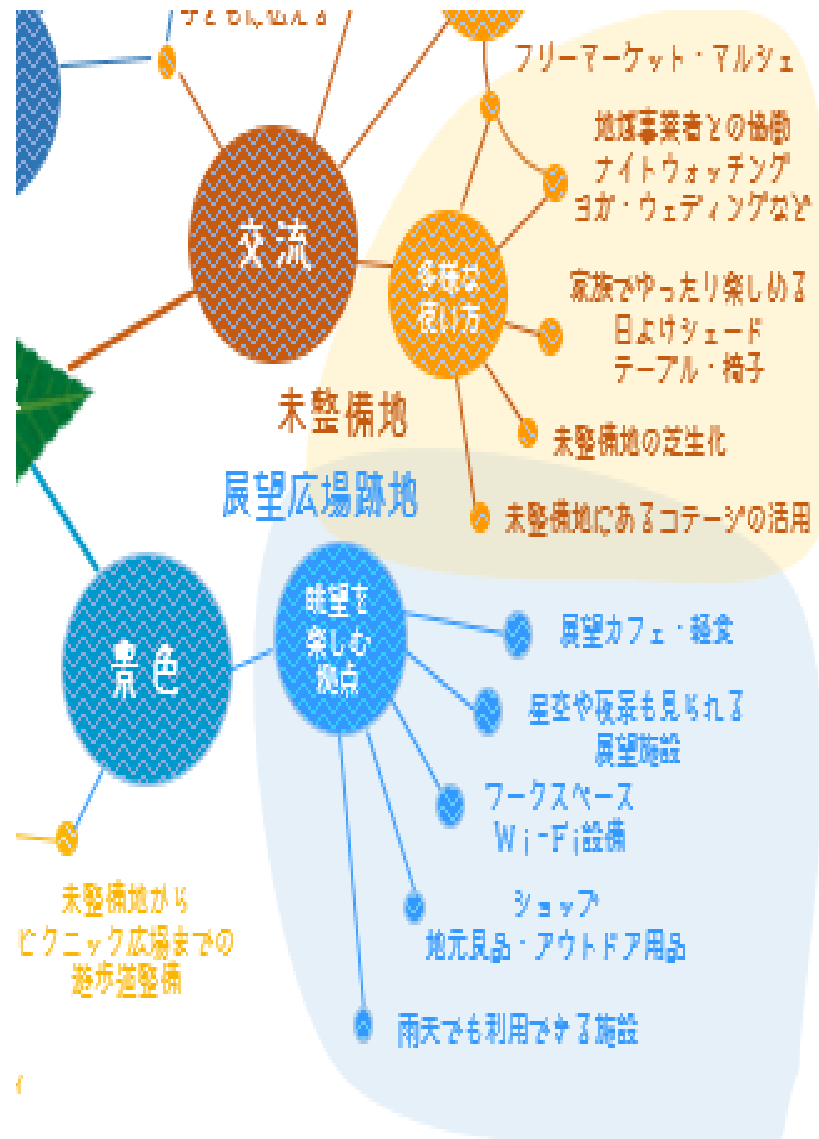
未整備地・展望広場跡地



音楽広場

方向性	整備・利活用イメージ
音楽を楽しむ空間としてだけでなく様々な用途に活用できる空間	<ul style="list-style-type: none"> ・ ステージ周辺の改修 ・ 幼児が遊べる空間としての活用

未整備地と展望広場跡地の整備内容と利活用方法



ワークショップ等で出された整備内容や利活用方法	第4回検討会議で出された意見の中で関連性があるもの
フリーマーケット・マルシェ	・市内どこでもやっていて必要性がない
地域事業者との協働 ナイトウォッチング・ヨガ・ウェディングなど	・昼間の活用は良いが、夜間の公園利用については遠慮すべき
家族でゆったり楽しむ 日よけシェード、テーブル、椅子	・パラソル、机、椅子などは、公園でレンタルできると良い
未整備地の芝生化	・賛成意見が複数あり
未整備地にあるコテージの活用	
<p>▶ 未整備地での多目的な活用方法の一つとして、キャンプができるようにする、デイキャンプならいいのでは、アルプス公園でキャンプをする必要性がない、夜間の公園利用は遠慮すべきと意見が分かれている。</p> <p>▶ 遊歩道をつくって様々な植物を植えて自然観察する場所</p> <p>▶ 自然活用実行会議で提言された、北側拡張部における「環境教育」「体験学習」ほど本格的ではないが、幼児や小学校低学年向けの森林セラピーなどについて、地域事業者との協働に加えてはどうか。</p>	
展望カフェ・軽食	・賛成意見が複数あり ・展望施設に併設の飲食施設は厨房機器を備えたものとし、市内事業者なら誰でも活用可
星空や夜景も見られる展望施設	・展望施設の再整備については賛成意見が複数あり ・夜間の公園利用については遠慮すべき
ワークスペース(※) Wi-Fi設備	・賛成意見が複数あり
ショップ 地元良品・アウトドア用品	・施設が大きくなりすぎないようにすべき
雨天でも利用できる施設	
<p>▶ 山と自然博物館に隣接する場所への展望広場の新設・再整備</p> <p>▶ 公園入口に全体をコントロールする案内所、場所としての機能があるといい</p>	